

# むゆいげ

111号  
No.1111

2016(平成28)年  
1月1日

美しき思いを  
あなたに  
こころが  
うつくしい  
みつを

相田みつを美術館  
オリジナルカレンダーより頂きました

発行者:高槻市氷室町2-19-30

浄土真宗本願寺派

萬徳寺

電話(072)696-0666

FAX(072)692-0769

スマホからでも見れます

<http://mantokuji.net>

# 新春法話



合わす手に 悲も喜もつつみ 春迎う

なもあみだんぶ なもあみだんぶつ

(鍋島俊樹師)

ああ！新しい年を迎え、また新たないのちをいただきました。有り難いことです。

## 最愛の人を

## 亡くしたあなたへ

私にとってもっとも胸が張り裂けそうになることは、「最愛の人を亡くした」「私の親や子どもがあとわずかな命だと宣告された」ときです。

人間はいつかは亡くなるとはわかっていても、どうしても受け入れることのできない悲しみに耐えなければなりません。愛する人を失ったとき、「安らかにお眠りください」とか「ご冥福をお

祈りします」という言葉では片付けられません。それは亡き人の死を無駄にすることなのです。

私は師から「人間は二度死ぬ」と教えていただきました。一度目は肉体が死んだとき、二度目は人の記憶から消え去ったときだと言います。ということは、人々の記憶に遺<sup>のこ</sup>っているならば、確実に生きているということになるのです。

一人居て喜ばば

二人と思うべし

二人居て喜ばば

三人と思うべし

その一人は親鸞なり

(親鸞聖人『御臨末の御書』)

「寂しいときは耐えよ！」と親鸞聖人はおっしゃったのでありません。

楽しいときのみを共有するのが本当の愛ではないのです。むしろ苦楽を共に分かち合ったときにこそ、愛は大きな宝となるのではないのでしょうか。

辛いですが、愛する人を亡くした苦しみや悲しみは消えてなくなりません。しかし、そのことで今まで気づけなかった大きなものもいただけるのです。

ある先生がいよいよ危篤<sup>きとく</sup>となり、大親友だけが病室に入っていたのだそうです。先生は、「またお浄土で会おう」とおっしゃいました。すばらしい「いのち」のお言葉ですね。

あなたの心に  
あの人は必ず居ます。

共に生きてほしい。

※川村妙慶氏著『愛し愛されて生きるための法話』より頂戴しました。



前坊守の和子が100歳を迎えるにあたって、仏教婦人会から花束を頂戴しました。誠に有難うございました。



11月15日、平成27年度萬徳寺仏教婦人会総会が開催されました。



11月14日・15日、萬徳寺の平成27年度報恩講法要が厳修されました。ご講師の宮部誓雅 師には、「親鸞聖人御絵伝」の絵解き法話をさせていただきました。



12月12日、萬徳寺キッズサンガとして、子どもたちに来てもらって、初めて境内でお餅つきをしました! つきたてのお餅をみんなで食べるのは大変美味しかったです。



9月27日に「KOKA式体幹☆バランストレーニング」を開催しました! 庄先生の指導のもと普段使われていない筋肉を覚醒させることを意識して!?和気藹々とトレーニングができました。



10月4日、今年の6月の人生講座にお越しいただいた三林京子さんの「雀林遊会」に行ってきました!

一日一度はお念仏申しあげましょう  
 我が声から出る南無阿弥陀仏は、  
 阿弥陀さまの喚び声ですよ  
 大きなお声でお念仏いたしましょう  
 お正月は ご家族とご一緒に  
 御仏壇にお参りいたしましょう

平成二十八年度(二〇一六年)  
**年回表**

一周忌	平成二十七年	往生
三回忌	平成二十六年	往生
七回忌	平成二十二年	往生
十三回忌	平成十六年	往生
十七回忌	平成十二年	往生
二十五回忌	平成四年	往生
三十三回忌	昭和五十九年	往生
五十回忌	昭和四十二年	往生

※亡き方を通して、今私たちは一生懸命生きていますよ、とのお心をお忘れにならないようにお勤め下さい。お家のご都合で、祥月命日が過ぎててもよろしいですよ。

萬徳寺平成二十八年度(二〇一六年)  
**年間行事予定表**

- ◎本願寺ご正忌報恩講団体参拝  
 仏教壮年会 一月十二日(月)
- ◎門徒冥加金勘定日  
 一月三十一日(日)
- ◎仏教婦人会常例法座  
 二月、三月、九月
- ◎花まつり  
 四月八日(金)
- ◎永代経法座  
 四月九日(土)、十日(日)  
 (講師 利井唯明師)
- ◎仏教婦人会ご本山念仏奉仕団  
 六月二十三日(木)、二十四日(金)
- ◎人生講座  
 六月二十六日(日)  
 (大阪教務所所長 熊谷正明師)
- ◎お経の練習会  
 八月下旬
- ◎報恩講法座  
 十一月十二日(土)、十三日(日)  
 (講師 武田達城師)
- ◎キッズサンガ子供会 お餅つき大会  
 十二月十日(土)
- ◎除夜会  
 十二月三十一日(土)



# 任職のひとり言



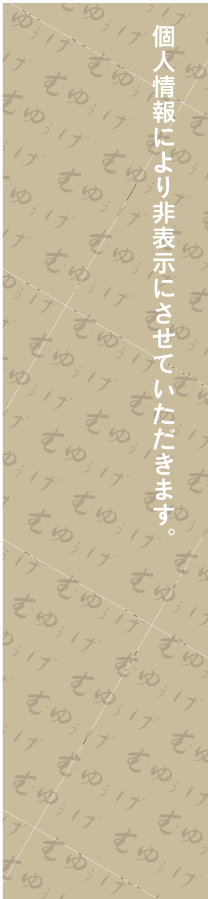
◆生と死は紙一重 今生きてることが不思議と思えたとき 与えられたこの生命を まことののために生かしたい(鍋島俊樹師)

◆2016年 今年も新しいいのちをいただきました。

◆あけましておめでとうございます。

◆昨年9月集団的自衛を認める安全保障関連法案が成立しました。これで日本は「戦争をしない国」から「戦争をする国」へと大きく転換することになりました。これまで自分の国が攻められるとこれを守るといって個別的自衛権はありましたが、これからは仲間(アメリカ)の国が攻撃されたとき、一緒に反撃をしなければならなくなります(たとえばアメリカ国のグアムが攻撃されたら日本も参戦する)。自衛隊が海外での戦闘で人を殺し、隊員に戦死者が出るのも、時間の問題かもしれません。戦後70年にして平和国家を揺るがすこの問題に、真宗念仏者としてどう関わっていかなければならないのか、私たちは真剣に考えていかなければなりません。『無量寿経』に「兵戈無用」という言葉が出てまいります。仏が歩み行かれるところには、武器(兵戈)をとって争うこともなくなるという意味です。日本を仏(阿弥陀如来)のおられる本願国家だと位置付けましょう。そうすれば平和国家をめざす真宗念仏者の進む道は自ずから定まってくる。

個人情報により非表示にさせていただきます。

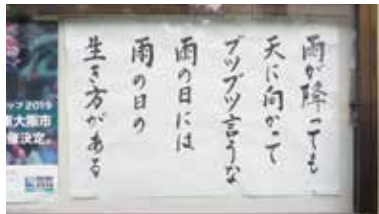


個人情報により非表示にさせていただきます。

生老病死苦の厳しい縁が尽き、阿弥陀さまのお側に還られたのです。ご家族のお悲しみ・寂しさはいかばかりかと存じますが、「悲しみを通さなければ見えてこない世界」があります。どうかご仏壇の前で、お手を合わせ、お浄土に還られた亡き愛しい方とお話をしてください。『愛する人は み教えとなつて 合わす手の中に 還ってくる』(鍋島直樹 先生)。お念仏申すお心はそのまま「あなたを見捨てないよ！今いただきたいのちをよるこびなさい」との阿弥陀さまの喚び声。そして亡き人から届けられた尊いお念仏のお心をお味わいください。なんまんだぶ なんまんだぶ

◆1月は親鸞聖人ご法事でありましてご正忌報恩講が1月9日より16日午前中(親鸞聖人往生日)まで勤まります。浄土にてかならず かならず まちまいらせそうろうべし(お浄土で必ずあなたをお待ちしています)。皆さまどうぞ、先にお浄土に還られた親鸞さまにお会いしに、ご本山報恩講にお参りしてくださいませ。

◆昨年11月14・15日に、報恩講法座をにぎにぎしく勤めさせていただきました。門信徒の皆さま遠近各地よりお参り下さり誠に有り難うございました。今年の報恩講ご講師 宮部晋雅先生が『御絵伝』(聖人ご生涯の絵物語)をスライドで絵解きをして、親鸞聖人のご生涯を分かりやすく説いて下さいました。



地域の皆さまから好評いただいている伝道掲示板